

カンパニー ナウ COMPANY 第717回 NOW!

アーバン・コネクションズ

—言葉の壁を取り除く

コミュニケーション・エキスパート

海外旅行で見かける観光名所のガイドブック。日本語版を手にとり、苦笑いを浮かべた経験のある人は少なくないだろう。おかしな文章や見慣れない文字フォントに違和感を覚えたことがその原因ではないだろうか。ガイドブックであれば愛敬ですまされることもあろう。しかし、契約に関わる文章や企業の広報など、ちょっとしたニュアンスの違いがトラブルに発展する可能性だってある。“言葉の壁”は想像以上に高い。適切なコミュニケーションは難しい。

(株)アーバン・コネクションズは、翻訳業を超えたコミュニケーション・パートナーとして信頼を得てきた。日本と海外の懸け橋として存在感を一層高めている。

ただ単に翻訳をすればよいわけではないことは、ガイドブックの例からも分かる通り。ネイティブの翻訳による正確な文章はもちろんのこと、フォントやレイアウトが見やすくなければ読みやすい文章とはいえない。読みやすさは重要なポイントだ。当社のラーリ・グリーンバーグ代表は「原文の意図、翻訳を依頼する目的を考え、Effective Communicationへ進化させなければならぬ」と“正確さ”と“読みやすさ”との両立にこだわりをみせる。

当社は、10数カ国の国籍のスタッフが、すべての工程のプロジェクト・コーディネーターとして案件の一括管理を行う。その他社外のネットワークで世界に常時200名のスタッフを実働部隊として動員できる点も強みといえる。工程を一括管理できるので、クライアントの要望に柔軟かつ迅速な対応も可能だ。従来の翻訳業務の多くはエージェントが介在し、翻訳、レイ

「Effective Communicationを可能にします」と題するグリーンバーグ代表



アウト、DTPなどその役割ごとに業者を分けて発注していた。それぞれの専門家を起用するという考えもあろう。だが、業者が分かれる場合、突然の変更が発生すると、当然対応に時間がかかってしまう。また、エージェントの介在がないことは、そのままコストメリットにもつながる。

そして、ビジネスのグローバル化で必須なスピードはどうか。当社は、報道記事や投資関連資料など速報性が重視される文書の翻訳を、24時間体制でサポートできる。そこまでできる同業他社はそうはいない。官公庁から頼りにされているゆえんだ。

映像の字幕、マーケティングリサーチなど翻訳を切り口に業務の幅を広げてきた。マーケティングリサーチは、言葉はもちろん地元の事情に通じているため、アンケートの返答率にも違いがでてくるといふ。

一つのメッセージを確実に、グローバルに発信する。それは言葉の壁を取り除く、マルチリンガル・コミュニケーションサービスを提供する当社の成せる業。相談しない手はないだろう。

(取材・文/東京支社情報部 牧 秀樹)

会社概要

(株)アーバン・コネクションズ
 企業コード：984581625
 東京都渋谷区渋谷3-27-11、電話03-5467-4721
 ラーリ・グリーンバーグ社長
 設立：1990年4月、資本金：1560万円
 事業内容：翻訳をベースとした出版、企画、マーケティング
 年収入高：約4億3500万円(2008年11月期)
<http://www.urbanconnections.jp/>

媒体データ 媒体名：日刊帝国ニュース 掲載号：2009年4月3日

www.urbanconnections.jp



©株式会社アーバン・コネクションズ